

たとえリセプトされても

互いの未来のために

5年 Y・Tさん

ぼくが一番驚いたのは、愛ちゃん自身が自分をロボットだと知らなかつたことだ。

それなり、実はぼくもロボットだったらしいことが怖くなつた。けれど、愛ちゃんは問題集を見ただけで理解できることを恥じ出し、ああ、ぼくは人間なんだなど安心した。

愛ちゃんだけ、最初にロボットだと悟れば余計な詮索はしないし、もっと純粹に仲良くてきたのではないか。

もちろん、ロボットだから出来て当然とか、無下にしてやることのやうな偏見の気持ちではなくしていかなくてはいけないと悟つ。

それでも、人間の社会の中にひつねりしロボットが混ざつてるのは怖い。外來種が少しずつ固有種を侵食していくのが恐いのを感じ、ロボットに嫌悪感を抱いてしまう。

けれどもこれから未来、ロボットはどうしても大切で共存しなくてはならないと思う。

たとえばロボットの先生がいて、クラス全員が同時に違う質問をしても一瞬で答えてくれたりしたり、次はどんなやじろーじがあるのかど、学校に行くのが楽しくなりそうだ。

けれど先生がロボットであることを隠していたら、人間離れしてころんじが不安で、学校に行きたくなくなつてしまつかもしれない。

要するに、お互いにまだ相手をよく知らないのだから、かくじほんをせずに、少しづつ理解して、みとめ合つていくべきだと思う。

この本の参考文献の著者である石黒先生が、アンドロイドを知るために、人間とはなにかを知るべきたと話してくる記事を読んだ。

先生が自身とそりくりなアンドロイドを作る際、髪の分け目一つとっても自分自身に対しても気付いていないことが多い、まことによく自分を知るべきだとう話を感銘を受けた。

ぼくはロボットについてなにも知らないところなどが分かった。けれど今、この本をきっかけに、ロボットをもっと知りたいと思つた。

お互いが幸せになる未来のため、自分自身を知るため、もつと見聞を広げていきた。